

いわき湯本高等学校の校章、制服、校歌について

【校章】



〈制作過程〉

湯本高校の生徒と遠野高校の生徒にデザインを募集し、両校の生徒、教員が投票を行い、校章制作委員会〔湯本高校の教員（美術教員を含む）と遠野高校の教員の合同〕において投票結果を参考に5案に絞り込んだ。その後、校章制作委員会で、複数のデザインを融合させながらコンセプトに合致するような最終デザインを決定した。

〈コンセプト〉

- (1) 湯本高校校章の特徴である六角形と遠野高校校章の特徴である三角形を合わせることでそれぞれ70年を超える歴史をもつ湯本高校と遠野高校が融合したことと、その学び舎で学んだ人々の思いを受け継いでいくことを表している。
- (2) 周囲の三角形の青緑色は、いわきの海やいわき湯本温泉の源泉の色をイメージしている。
中央にはYUMOTOの「Y」があり、その形は「羽」と「芽吹き」をイメージしている。「羽」は成長した若鳥が巣を飛び出し自立するように、本校で学んだ生徒が社会に向けて力強く飛び立つ様子を表している。「芽吹き」は明るい太陽に照らされて成長する若葉のように、生徒たちが目標に向けて日々、成長していく様子を表している。

【制服】



<制服のコンセプト>

「伝統をつなぐ」

湯本高校の伝統を継承した三つボタンとすることで、洗練された品格を加えた。落ち着きの中にも生き生きとした高校生らしさをちりばめたスタイルとした。

色は濃紺を基調とし、現在の湯本高校制服を受け継いだ。ネクタイと女子のスカートには、現在の遠野高校で使用しているえんじ色を使用した。

なお、女子スラックスも用意した。

【校歌】

【1】

ときわ おか あお そら たかだか
常磐の丘陵 仰ぐ天空は 高々と
わ あ えいち いずみ
湧き上がる 英知の源泉は たえまなく
あす とびら ひら あら と き あゆ
明日への 扉を開き 新たな時代を さあ ともに歩もう
まな や とも きずな かた
この学び舎で 友との絆を さらに さらに固く
ゆもと いわき湯本 高校

【3】

のぞ うなばら きぼう ひかり さんさん
望む海原 希望の光は 燦々と
ゆめつか きら こころ むげんだい
夢掴む 煌めく意志は 無限大
あす とびら ひら あら と き つく
明日への 扉を開き 新たな時代を さあ ともに創ろう
まな や とも きずな つよ
この学び舎で 友との絆を さらに さらに強く
ゆもと いわき湯本 高校

<校歌のコンセプト>

- (1) 湯本高校、遠野高校がそれぞれ歩んできた70年を超える歴史の礎の上で両校が融合し、新たに築かれる学校の証となる。
- (2) 湯本高校と遠野高校の伝統やその学び舎で学んだ人々の思いをこれからも受け継いでいく。
- (3) 湯本高校と遠野高校の学校目標・教育目標や校訓等を踏まえる。
- (4) 夢や希望を持ち、魅力あふれる高校生活を送ることができるよう、生徒が新たな未来へ歩みだす自分自身へのエールとなる。

<詞の内容>

湯本高校と遠野高校の生徒から校歌に入れてほしいキーワードを募集し、校歌制作委員会でとりまとめ、歌詞を作成した。1番は「いまをたしかに生きる」、2番は「希望は明日へと続く」、3番は「輝く未来をともに創る」というテーマを設定し、生徒が未来を思い描き、力強く前へ進んでいけるよう希望溢れる歌詞になっている。

<曲の内容>

新しい学校に生まれ変わり活気溢れるであろう「いわき湯本高校生たち」をイメージし作曲した。生徒たちに対し、歌詞にある「友との絆」そして友情を大切に、それぞれの未来を力強く逞しく切り拓いて欲しい、という願いを込めた。勇気が湧き、元気が出るような、そして誇り高い曲調を目指した。やりたいことを成し遂げ、活躍した生徒らが誇らしげに歌い上げる様子を想像している。

【2】

さはこ やま まと みどり しんしん
三函の山 纏う翠は 深々と
とき こ つむ おも えいえん
時を超え 紡いだ思いは 永遠に
あす とびら ひら あら と き すす
明日への 扉を開き 新たな時代を さあ ともに進もう
まな や とも きずな ふか
この学び舎で 友との絆を さらに さらに深く
ゆもと いわき湯本 高校

<作詞者>

校歌制作委員会

(湯本高校と遠野高校の教員による合同制作委員)

<作曲者>

小山田浩氏 (福島県立湯本高等学校教諭)

国立音楽大学音楽学部卒業

平成21年本県県立高等学校教諭に採用

福島県立いわき翠の杜高等学校の校歌の作曲にも携わった。